

## 年 頭 所 感

## 年 頭 所 感

宮城県医師会会長 佐藤 和 宏



明けましておめでとうございます。会員の先生方には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、天皇が即位され、元号が平成から令和に変わるという時代の転換期でありました。平成の世には、東日本大震災という未曾有の災害が宮城県を襲いました。令和の時代は、そうした自然災害が少ないことを祈念しましたが、台風19号の災害は、吉田川や阿武隈川の氾濫をもたらし、流域の住民に大きな被害をもたらしました。大変痛ましいことでありましたが、宮城県医師会としては、日本医師会、宮城県、災害医療コーディネーター、地元医師会などと緊密に連絡を取り、JMAT宮城を出動させました。被害に遭われた住民の方々、医療関係者の皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

さて昨年は、地域医療構想に加え、医師偏在対策および医師の働き方改革などが矢継ぎ早に厚労省から発表されました。厚労省はこれを「三位一体改革」と称しているようですが、日本医師会としては「相互に関連はしているものの、呼び方としてはふさわしくない」としています。極めつけは、9月26日に公表された「再編統合の必要性について特に議論が必要な公立、公的医療機関等」の名前の公表でした。誌面の関係で詳細は割愛しますが、一定の基準で選択した医療機関名を公表し、2020年3月末又は9月末までに結論を出すように求めています。

今まで、実際の病院名を挙げて問題視したことはなく、衝撃的な事案として受け止められた方も多いためです。当然、当該医療機関や地元首長さんからの反発の声も上げられましたが「地域の実情に沿い」とか「地域医療構想調整会議を活性化するためだ」とか、後から言い訳のような文言が聞こえてきます。私は「地域にとって必要な医療機関は、公立、公的であれ、安易に再編統合などは考えるべきではない」と思っております。ただし、民間のように厳しい経営戦略を持って運営していただくことは、税金が全国で8,000億円余り投入されている事実からも当然であります。

今後の社会では、人口構成の変化などからも、医療費を含む社会保障費の適正化は必要だという議論があります。しかし、医療費や社会保障費の将来推測値の取り扱いは慎重であるべきです。社会保障費は名目値で論じるのではなく、対GDP比で見べきであり、例えば2040年の社会保障費の対GDP比は23.8%であり、これは現在の1.1倍に過ぎないという見方もあります。また、我が国の2017年の保健医療支出の対GDP比は10.7%であり、世界で6番目です。これは、日本の高齢化率を考えると適正か、むしろ少ないとみることもできます。「医療費亡国論」的な考えに、盲従するわけにはいきません。

仮に、医療費の適正化は必要だとしても、厚労省の方法論はいかがなものかと考えています。診療本体、ことに病院をターゲットにしています（療養病床を減らして在宅に持っていくことや急性期病床を減らすことなど）が、大手薬局チェーンによる公的財源（税金、保険料、一部負担金）を原資とした大儲けはどうなっているのでしょうか。ある大手薬局チェーン店の3本柱は、調剤薬局、後発医薬品製造、そして有料職業紹介だそうです。少なくとも調剤薬局は、非営利の「薬局法人」にしてほしいものです。また薬価制度に関しては、新薬の原価計算方式を透明化して、高額医薬品にもメスを入れるべきです。

現在の医療業界は、本体がやせる一方で、外部が太っていく図式とも言えます。また病院関係者のストレスはたまる一方です。このようなことが続けば、いつか不満は爆発するでしょう。

現在の医療業界は、本体がやせる一方で、外部が太っていく図式とも言えます。また病院関係者のストレスはたまる一方です。このようなことが続けば、いつか不満は爆発するでしょう。

---

---

---

---

---

---

## 年 頭 所 感

それにつけても政治力は必要なのに、昨年の参議院選挙は約10万票減の15万票あまりで、自民党当選者19名中16位という残念な結果でした。宮城県は、6年前と比較して数少ない増票県でしたが、精いっぱいやった割には少ない投票数だと思っています。現在の閉塞状況を打ち破るためには、強力な政治力は必要で、またそれしか解決策はないことを医師全体で共有していきたいと思います。

医療介護総合確保基金に関しては、以前から関与させてもらっています。国は「地域医療構想を実現すべく、急性期から回復期などへの転換、すなわちハード部分に使用する目的の資金だ」という考えのようですが、その他に医療人材育成や在宅医療促進に使用することも認められており、地域医療活動には必要な資金です。私も毎年厚労省のヒアリングに参加していますが、その使い勝手の悪さは、全国的に共通の認識のようです。地方をもう少し信用して早く内示を出し、貴重な資金を使わせていただきたいと思っています。令和元年の基金の内示も大幅に遅れ、大変がっかりしたところです。

以上縷々述べましたが、今年こそ、先生方にとりまして、また医療界にとって良い年になりますことを心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

